

# 子どもの比喩表現を用いた発話によるコミュニケーション

大阪芸術大学短期大学部 保育学科 講師 作野友美

## 1. 研究目的

これまでの多くの子どものコミュニケーションにまつわる研究があるが、子どもの比喩表現に関して、研究はほとんどなされてこなかった。また、保育者がどのような場面で、比喩表現を用いて保育を行っているのかについても、あまり研究がなされていない。

研究の視座として、子どもの多くのコミュニケーション場目に着目し、どのような比喩表現を用いて発話をしているのかを分析していく。それがどのような表現であり、どのような場面で用いられているのかをとらえ、その発話の効果等も考察していく。また、保育者もどのような比喩表現を用いて保育を行っているのか、その子どもたちへの影響に関してもとらえていきたい。

子どもの比喩表現に関する研究は、それほど多くなされていない。富田(2001)では、比喩を用いた3つの場面を分析し、子どもの大部分は、動作主比喩よりも容器比喩において正答を多く選択したことを明らかにしている。

また、宮里・丸野(2009)においては、「第一に、幼児にとって比喩を用いたコミュニケーションとは他者との共通する情動と体験に基づくものであり、先行研究が想定してきたような認知的な枠組みのなかでの類似性の発見という理解プロセスのみでは不十分だ」ということや、「第二に、幼児にとって比喩とは、その時の内的な情動や体験といったもやもやとしたものを直接的に他者と共有するための手段であり、かつ他者との関係性の上に成り立つものであって、単なる「レトリック」や「類似特徴の伝達」ではない」こと等を知見として示している。

これまでみてきたように、子どもの比喩表現をとらえようという視座は、各研究にあるものの、長期的なフィールドワークで保育環境において子どもたちがどのように比喩を用いているのか、その場面や使用する意味等を分析したものは研究がなされてこなかった。

本研究では、子どもの比喩表現を用いた発話行為を分析することで、子どもの認知的な発達やコミュニケーションの発達について考察する。

## 2. 研究方法

本研究は、幼稚園においてフィールドワークを行い、そこでの子どもたちの発話行為を分析し、どのような場面でどのような比喩表現を用いたコミュニケーションを行っているのかを考察する。また、保育者がどのような比喩表現を用いて保育を行っているのかもとらえていきたい。

本研究は、4歳児のクラスで、1日2時間程度のフィールドノートに書き記す形で参与観察を行った。調査期間は、2025年5月から2026年2月末までの10か月間で、8月の夏休み期間は調査を行わなかった。本研究では、非参加観察法を用い、筆者は子どもたちに話しかけられた場合や何か困ったことがあるときには最低限の対応はするが、保育には関与を行わない

形で調査を行った。

尚、本調査では、音声データの取得は行わず、その場で筆者がフィールドノーツを記入していく形で調査を行っている。また、適宜、調査の必要に応じてデジタルカメラで子どもたちの顔が写らないように静止画像データを収めている。この静止画像データは必要最小限の撮影にとどめ、保育に支障がないように行った。また、データは専用のSDカードで撮影し、外部に漏洩がないようにその後も管理を行っている。

調査した際に収集したフィールドノートおよび静止画は、ナンバーリングを行い、個人情報を守る上で、適切に取り扱い分析をする。

## 3. 研究結果

本研究を行った結果、子どもたちは子ども同士で遊ぶときに、「○○みたい」「○○のようだ」のような明示的な直喩を表現することがあることがわかった。しかし、その頻度は必ずしも多くはなかった。比喩表現はコミュニケーションにおいて、子どもたちが比喩というものの知識を持っていることが前提にあり、言葉の発達の上で比喩表現はやや難しい表現であることからその表出の回数が少ないのではないかと考えられる。

また、比喩表現とは若干異なるが、ごっこ遊び等でオノマトペを使用してコミュニケーションを図っていることが明らかになった。保育者も製作や運動遊び等の一斉保育のときに、オノマトペを用いることもわかった。

子どもたちも保育者もオノマトペを用いることで、イメージを広げたり、保育者の指示をより明確にわかりやすく受け取ることに繋がると考察できる。また、保育者が製作や運動遊びで比喩表現を使うことにより、子どもたちのイメージ喚起により効果があると考えられる。

## 4. 総合的考察

本研究の子どもの比喩表現を用いた発話行為を分析することで、子どものとらえている比喩を用いたコミュニケーションの一端を提示することができた。

発達をするにつれて、比喩表現の種類も増えて、子ども同士のコミュニケーションも円滑になると考えられる。

今後も、子どもたちが比喩表現を用いた発話をとらえることで、認知や言葉の発達、そして、コミュニケーションの育ちを考察していきたい。

## 引用・参考文献

- 宮里香・丸野俊一(2009)「保育実践場面で観察される比喩を用いたコミュニケーション：その場で何が生じているのか?」『九州大学大学院人間環境学研究』第10巻, pp.47-53.
- 富田昌平(2001)「幼児の心的な比喩の理解：心は容器か、物体か、動作主か?」『発達心理学研究』第12巻, 3号, pp.228-238.